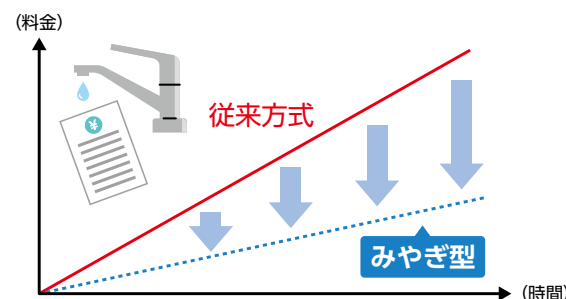


POINT.3 削減したコストはどう活用されるの？

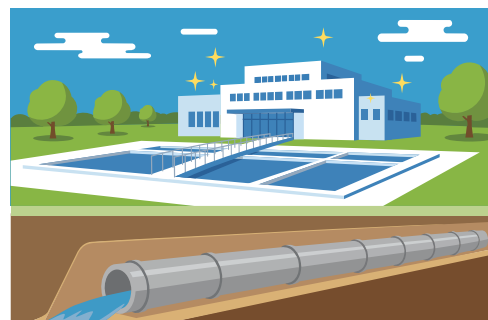
1. 料金上昇の抑制

利用者(市町村、工業用水の利用会社)の負担軽減
⇒令和6年度から水道料金の引き下げを実施



2. 将来に向けた経営基盤の強化

将来的な投資資金の確保
⇒管路や設備の更新への備え



POINT.4 安全性や料金は大丈夫？

水の安全と料金は、**県がしっかり守ります。**

水質は**従来より厳しく確認**

- 従来よりも水質試験項目数を増やして検査
- 県が法定検査・抜き打ち検査を実施
- 結果は毎月、県と民間会社のホームページで公表



CHECK



県と第三者による**3重のチェック**



水道料金は、県と市町村による協議を経て、県議会の議決により決定**されます。**

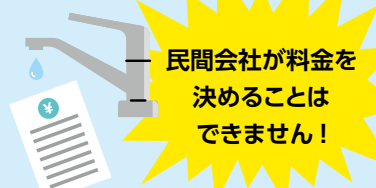
県と市町村による協議



県議会の議決



料金改定



民間会社が料金を決めることはできません！

施設の所有権と最終責任は**県**が持ち続けます。
県民の皆さんの暮らしを支える安全で安定した水の確保に、今後も全力で取り組みます。

県ホームページ



民間会社
(みずむすび)
ホームページ



みやぎの水道、未来へつなぐ

県は、「水道用水供給事業」、「工業用水道事業」、「流域下水道事業」の水道3事業を管理・運営しています。この大切なライフラインを将来の世代に安定して引き継いでいくため、民間会社と連携した「みやぎ型管理運営方式」を令和4年度から導入しています。この方式は、民間の技術やノウハウを活用し、経費削減と持続性の確保を実現する仕組みです。今回は、導入の背景や効果、安全性を確保するための監視体制など、「みやぎ型」のポイントをご紹介します。

POINT.1 なぜ「みやぎ型」が必要なの？

私たちの暮らしを支える水道は、大きな課題に直面しています。

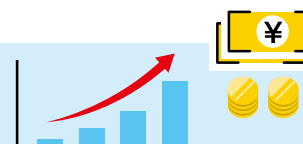
人口減少などによる水需要の減少



管路や施設などの老朽化に伴う更新費用の増大



従来の手法では、**料金上昇が避けられず、**
経営環境が一層厳しくなることが想定されます。



官民連携の新しいカタチ

みやぎ型管理運営方式へ



POINT.2 「みやぎ型」の仕組みは？

浄水場や処理場の管理・運営方法を変更（※管路の管理は引き続き県が実施）

従来の運営方式

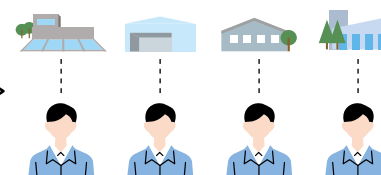
県の役割

水質基準を満たすため、運転管理方法などを細かく規定

民間会社の役割

県が指定した方法に従い、運転管理を行う

業務ごとに
個別の
短期契約



事業規模が小さく効率性に限界

コスト削減が難しい

みやぎ型管理運営方式

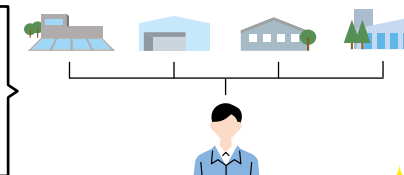
県の役割

水質などの基準を指定

民間会社の役割

基準を満たすよう、民間のノウハウを最大限活用し、運転管理を工夫

事業全体を一括で
長期契約
(20年間)



効率的な運営が可能に

大幅なコスト削減(約337億円)を実現！